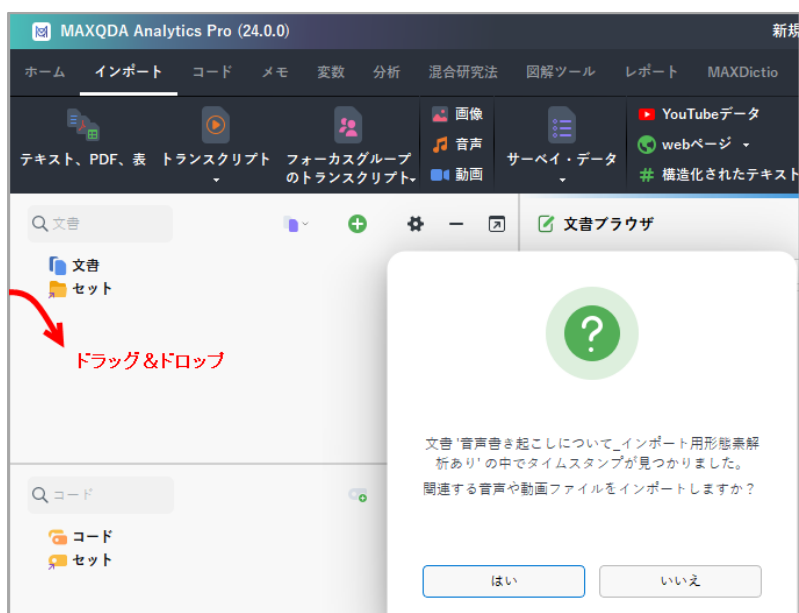


MAXQDA 文字起こしデータの取り扱い

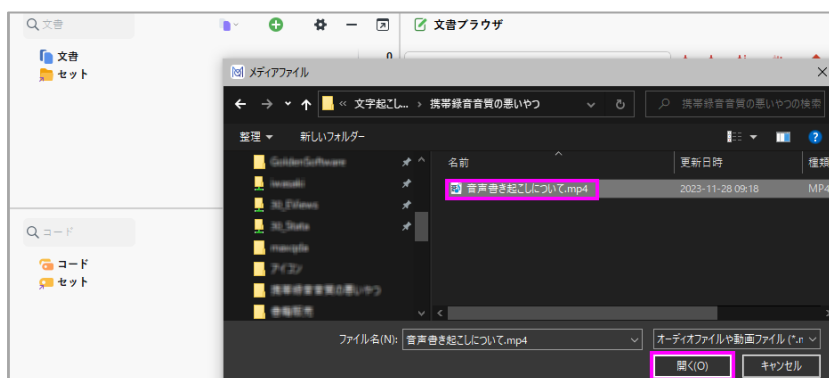
- MAXQDA 文字起こしで文字起こしを行った後、データを MAXQDA にインポートして分析を開始する手順を解説します。
- 保存(ダウンロード)した文字起こしデータを確認します。文字起こしデータは、Word ファイル(.docx 形式) で保存されます。

インポート

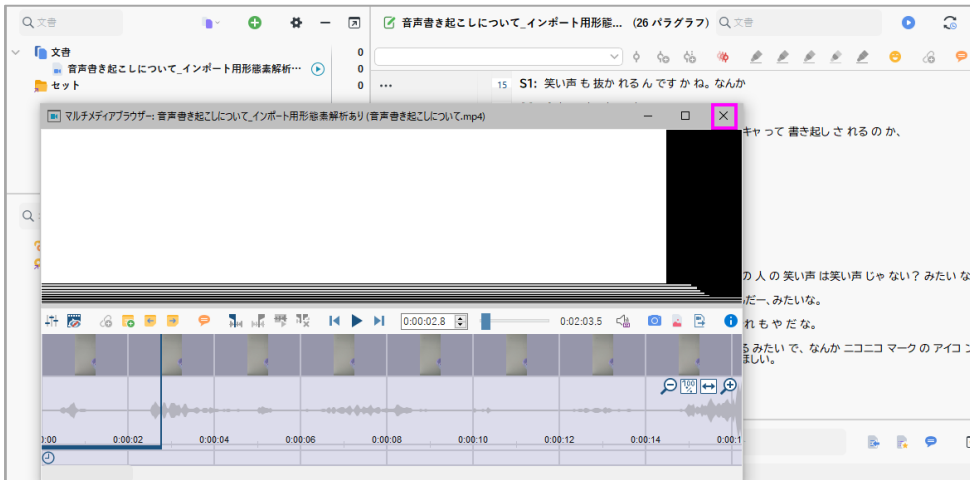
1. 文書システムに Word ファイルをドラッグ&ドロップします。



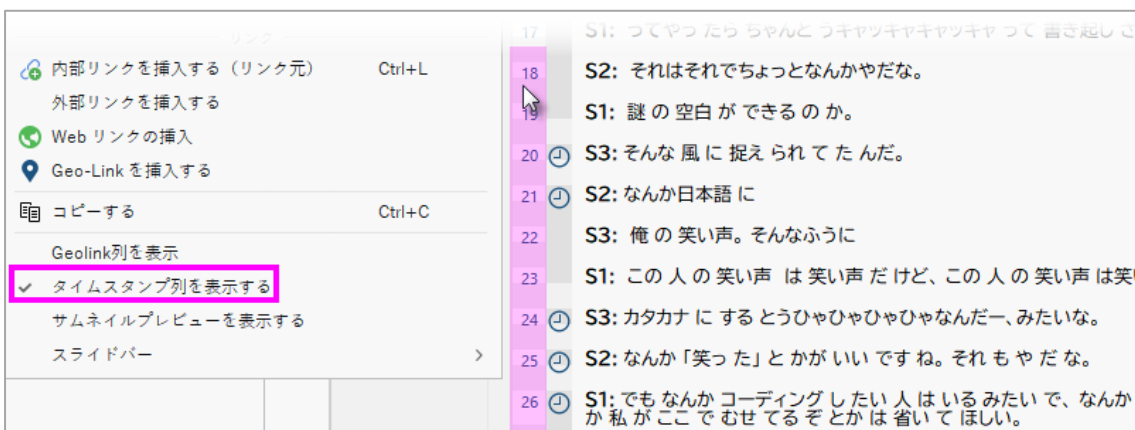
2. MAXQDA がタイムスタンプを認識し、「音声や動画をインポートしますか？」のダイアログが出現します。インポートした場合は「はい」をクリックします。
3. 音声・動画ファイルを選択するダイアログが表示されます。文字起こしの元データを選択して「開く」をクリックします。



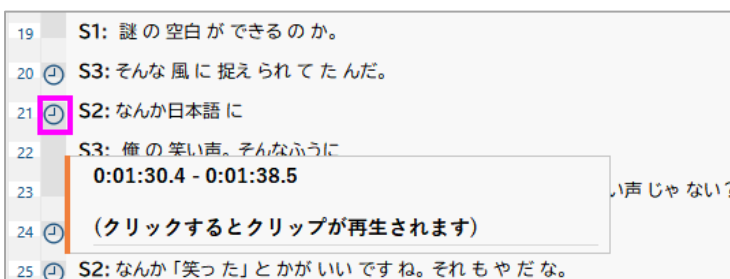
4. 文字起こしデータと元の音声・動画ファイルがインポートされます。すぐに音声・動画を再生しない場合は、右上の×ボタンでマルチメディアブラウザを閉じます。



5. 段落番号の上で右クリックし、「タイムスタンプ列を表示する」を選択します。段落番号の右列にタイムスタンプアイコン🕒が表示されます。



6. タイムスタンプアイコンをクリックすると、クリックしたタイムスタンプの時間から音声・動画が再生されます。



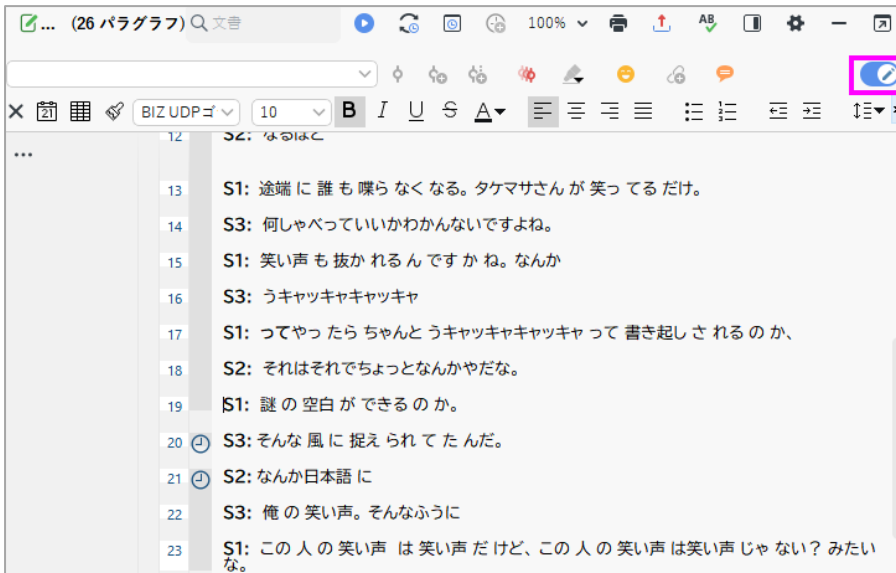
ワンポイントアドバイス 大容量の音声・動画ファイルは、外部ファイルとして保存されます。

▼ 参考：外部ファイル（大容量のデータ）

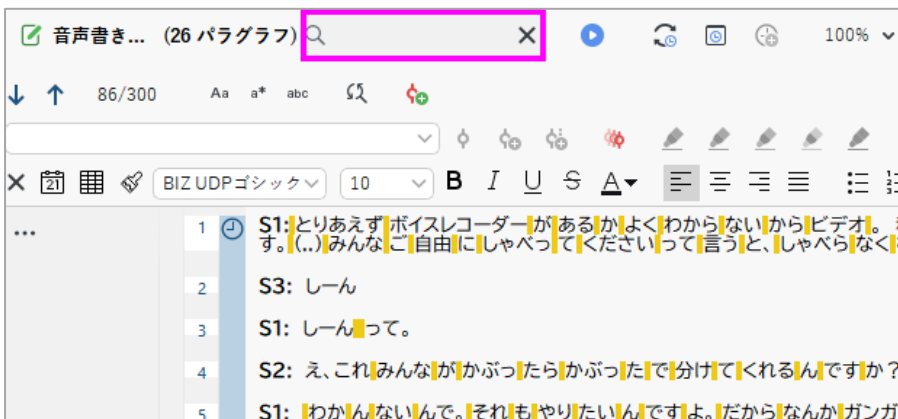
https://www.lightstone.co.jp/maxqda/learning_file.html#50

データの修正

1. 文字起こしの文章を修正する場合は、文書ブラウザ右上の鉛筆アイコンをクリックします。アイコンが水色になり、編集モードがオンになります。



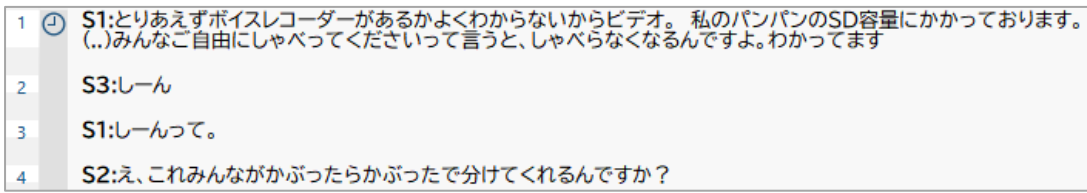
2. 文字起こしの文章には、形態素解析による半角スペースが含まれています。置換機能を使って半角スペースを削除してみましょう。検索バーに、半角スペースを入力します。検索結果が黄色でハイライトされます。



3. 「検索と置換」ボタンをクリックします。置換後の文字列を入力する欄には何も入力しないまま、「すべてを置換する」をクリックします。



4. 半角スペースが削除されます。



5. 話者の区分ミスや、漢字の変換ミスなども修正します。修正が完了したら、右上の鉛筆アイコンをクリックして、編集モードをオフにします。

ワンポイントアドバイス 話者名の後には「:」を入力します。

話者のコードを作成

話者のコードを自動作成することができます。例えば、Aさんの発言には「Aさん」、Bさんの発言には「Bさん」のコードを付与します。すると、Aさんの発言のみを調べたり、AさんとBさんの発言内容を比較したりする操作が簡単になります。

話者のコードを自動作成するためには、下記のルールに従って文字起こしデータを作成します。

- 話者が変わるときは、新規段落で始めます。
- 話者の名前の後にダブルコロン「:」を入力します。
- ダブルコロンの前に入力できるのは63文字までです。
- ダブルコロン以降のテキストが自動コーディングの対象となります。

MAXQDA 文字起こしで文字起こししたデータは、上記の形式になっています。下記の操作で話者のコードを作成します。

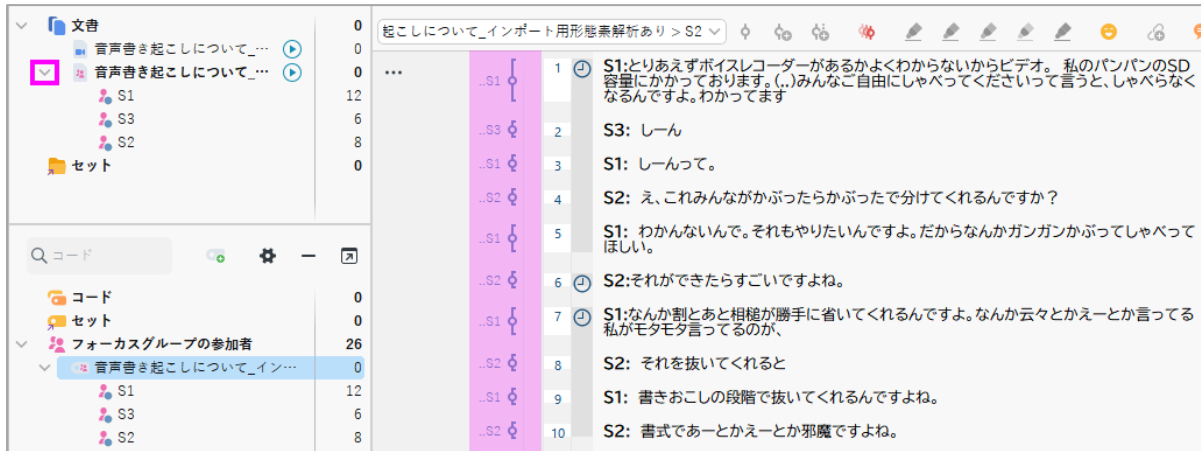
1. インポートタブの「テキストをフォーカスグループに変換する > 表示ドキュメントを変換」をクリックします。



2. コーディングのプレビューが表示されます。話者ごとにコード色を変えたい場合は、この画面で設定できます。変更しない場合は、デフォルト設定のまま「変換する」ボタンをクリックします。



- 話者コードが作成されます。文書システムとコードシステムにも話者コードが追加されていることを確認します。



話者コードを使った分析例

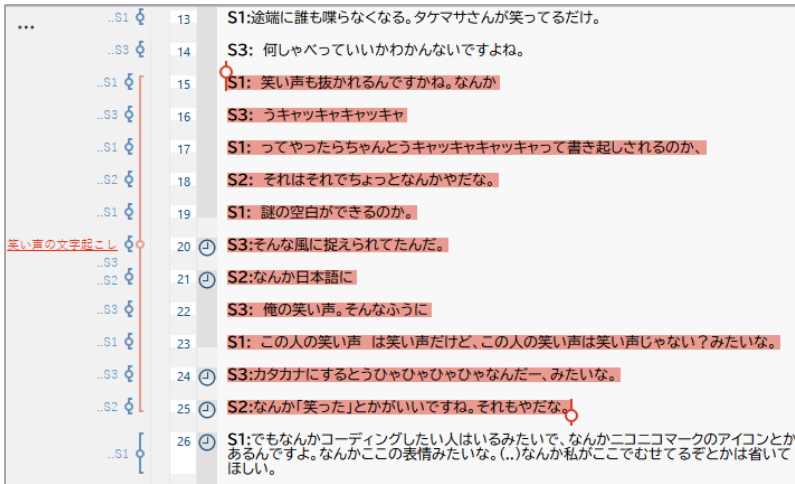
発言の概要

変数タブの「参加者変数用のデータエディタ」をクリックすると、発言単語数と文字数を、参加者ごとに自動計数します。

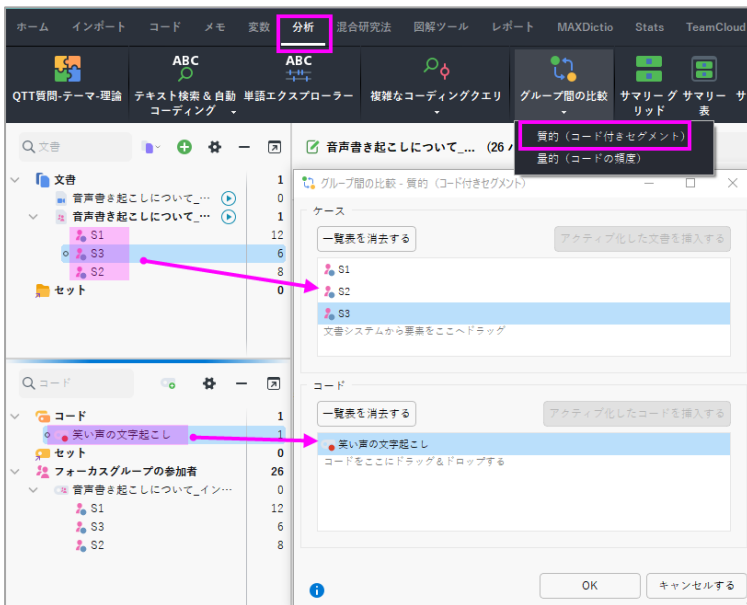


発言内容の比較

- 話題を大まかにコーディングします。下図では、「笑い声の文字起こし」について話している箇所をコーディングしています。



2. 分析タブの「グループ間の比較>質的 (コード付きセグメント)」をクリックします。
3. ダイアログが開きます。ケース欄に文書ブラウザの話者 (S1、S2、S3) を、コード欄にコードシステムのコード (笑い声の文字起こし) をドラッグ&ドロップで入力します。設定したら「OK」をクリックします。




4. コード「笑い声の文字起こし」について、3人の発言内容を比較できます。

コード	参加者 S1 (1 文書, 4 コード付セグメ...	参加者 S2 (1 文書, 3 コード付セグメ...	参加者 S3 (1 文書, 4 コード付セグメ...
笑い声の文字起こし (11)	笑い声も抜かれるんですかね。なんか	それはそれでちょっとなんかやだな。	うきゃきゃきゃきゃ
	ってやったらちゃんとうきゃきゃきゃきゃって書き起しされるのか、	なんか日本語に	そんな風に捉えられてたんだ。
	謎の空白ができるのか。	なんか「笑った」とかがいいですね。それもやだな。	俺の笑い声。そんなふう
	この人の笑い声 は笑い声だけど、この人の笑い声は笑い声じゃない? みたいなの。		カタカナにするとうひゃひゃひゃひゃなんだー、みたいなの。

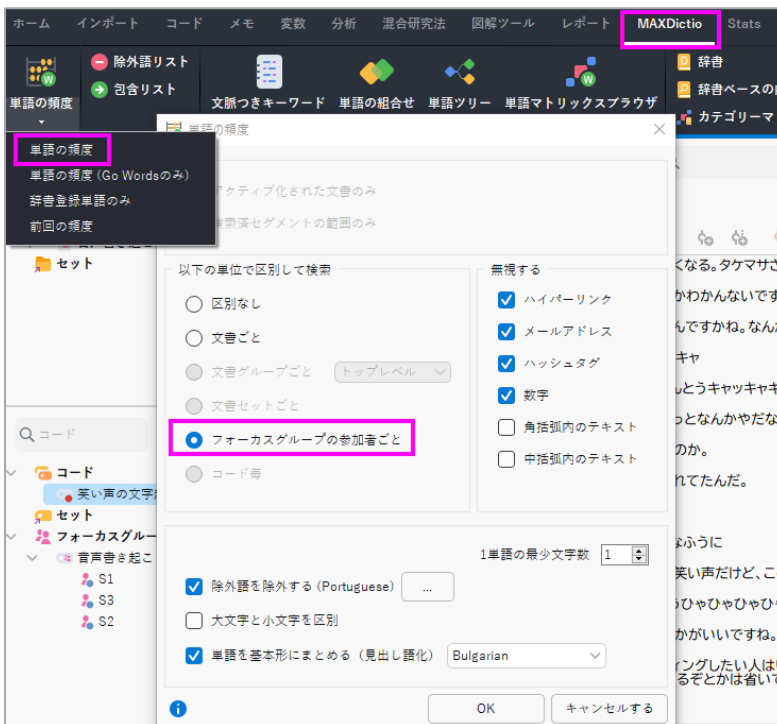
単語の頻度とワードクラウド

話者ごとに単語の頻度を調べ、ワードクラウドを作成します。

1. 左下の環境設定  を開きます。左列から「言語設定」を選択し、「テキストの言語は日本語です」「助詞を無視（日本語）」オプションを有効にします。ボタンが水色になります。「保存する」ボタンをクリックして、設定を保存します。



2. MAXDictio タブから「単語の頻度 > 単語の頻度」を開きます。
3. ダイアログが開きます。「フォーカスグループの参加者ごと」オプションを有効にして「OK」をクリックします。



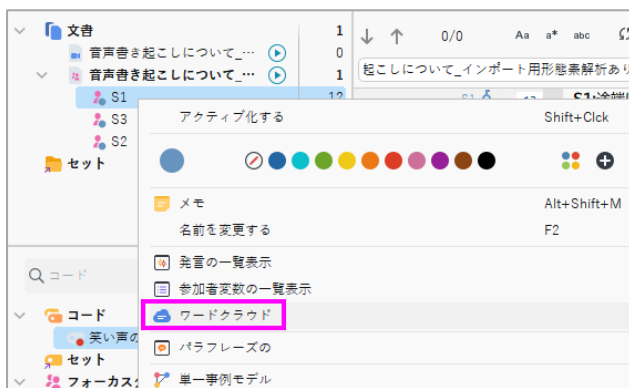
4. 単語の頻度表が作成されます。発言者ごとに単語が集計されています。下図では、話者 S1 が「なんか」と 10 回発言していることが分かります。閲覧したら単語の頻度表を閉じます。

単語	単語の長さ	頻度	%	ランク	フォーカスグループの参加者	フォーカスグループの参加者 %	S1	S3	S2
なんか	3	26	3.45	1	3	100.00	10	0	2
て	1	22	2.92	2	3	100.00	8	1	2
です	2	20	2.65	3	3	100.00	6	0	3
ん	1	20	2.65	3	3	100.00	7	2	1
それ	2	14	1.86	5	3	100.00	2	0	4
よ	1	14	1.86	5	2	66.67	5	0	2
とか	2	13	1.72	7	3	100.00	4	0	2
笑い声	3	12	1.59	8	2	66.67	5	1	0

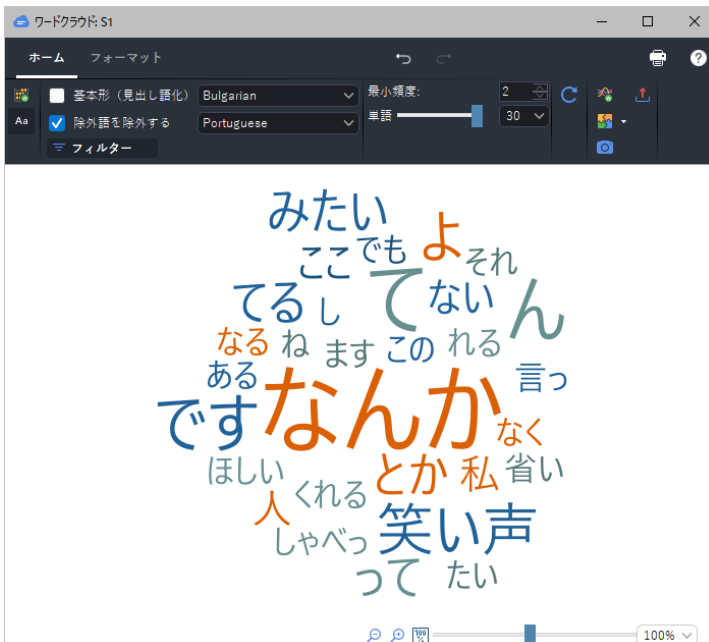
▼単語の頻度

https://www.lightstone.co.jp/maxqda/learning_maxdictiotools.html#20

5. 話者 S1 のワードクラウドを作成します。文書システムで「S1」を右クリックし、「ワードクラウド」を選択します。



6. 話者 S1 のワードクラウドが表示されます。



▼ワードクラウド

https://www.lightstone.co.jp/maxqda/learning_maps08.html